

KIKUTAKE 校長通信

令和4年度 11月号 第92号

3年ぶり全校生徒で開催!
2022.10.27(水)
ドルフィンズアリーナ



『習慣の差』歳を重ねると、知識が増えますが「知っていること」が増えても、「できること」が増えるわけではありません。いろんなことを学んで知識が増えると、何かできそうな気がします。

たとえば、「今、アフリカでは、食事もともに食べられない子どもたちがいるんだよ」と言うと、「知ってる、知ってる」と言います。でも、実際には何もしていない。スポーツ選手のメンタルコーチもされている吉井雅之さんがこんなことを言っています。「スポーツをやっていく中で、成長する人と成長しない人がいる。」成長する人は、「知っていること」と「できること」の違いがしっかりわかっている人だと言います。これが本当にわかる人というのは「素直」な人です。素直じゃない人は絶対に成長しません。知ってるだけで自分はできるという気になって、できたようにしゃべります。脳のことを学んでいくと、私たちは、「動物」という種類の中の「ヒト」という種類であることに気づきます。脳の構造は、みんな一緒で、能力の差なんて本来ないです。あるのは「習慣の差」だけです。福沢諭吉さんが、「学問のスゝメ」でも同じようなことを言っています。生まれたときは一緒でも、「努力」、「学問」で差がつく。人の脳は、顕在意識5%、潜在意識95%だそうです。顕在意識は「意識していること」、潜在意識は「意識していないこと(無意識に行なうこと)」と思ってください。パーセンテージの数字はおいておいて、「意識していること」を繰り返し反復して、ある一定期間経ったら、潜在意識に落ちてきます。潜在意識になったことを繰り返し反復していくと、「能力」になります。ということは、「知っていること」は能力じゃないということです。

